

特別活動（学級活動）学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校教諭 〇〇 〇〇

1 日時 平成20年 11月〇日（〇）

2 学年 第6学年〇組

3 題材 「ありがとうの心」を伝えよう

4 題材設定の理由

○題材観

今回の題材は『「ありがとうの心」を伝えよう』である。みんなが言われるとうれしい言葉ナンバー1が「ありがとう」である。これから卒業までの半年間、この言葉がいつも自然にあふれ出るような学級であってほしい。そのためには子ども同士のかかわり合い方が重要となる。かかわり合い方を意識することでいかに自分が周りの人達や友達に助けられているかということに気付き、学級や友達に対して「ありがとうの心」を伝えることの必要性を知ることができる。また、反対に自分が「ありがとうの心」を伝えられた時の気持ちよさや居心地のよさをしっかりと感じる事ができた時、自分自身の内面に人や友達に対して積極的に声かけやかかわり合おうとする姿勢が芽生えていることを実感することができる。

本題材は今までの自分を取り巻く全てのものや人に対して感謝の気持ちを抱くこと、つまり、ありふれた何気ない日常の生活を振り返り、「ありがとうの心」を伝え合うことを大切にしている。さらには「ありがとうの心」が人生の中でよりよい友達関係や人間関係を築いていくための基盤のひとつであり、不可欠であることに気付かせることができる題材である。

6年生後半になると、子どもたちは思春期の入り口にさしかかって、自己中心的な考え方になりがちである。また、異性を意識し始め、思いはあっても素直に感謝の気持ちを伝えることに恥ずかしさや照れを感じるのもこの頃からであろう。さらに親や教師、大人に対して反発し、感謝の気持ちを伝えることが不器用になるのもこの時期からである。そこで、卒業という節目が近づく今から活動に取り組むチャンスであると考えた。卒業を意識し始め、子どもたちは徐々に感謝への意味付けやお礼を伝える必要性を感じ、考えることができるようになる。12年間という人生を振り返ることができる一生に一度のこの時期に、学校生活から日常生活まで、幅広く「ありがとうの心」を強く意識してほしいという願いも本題材には込めている。

○児童観

本学級の児童は、比較的、あいさつはよくする。授業後の号令では「ありがとうございました」という言葉を発してはいるが、最近は形骸化しているように感じる。また、子ども同士の会話の中には「ありがとう」という言葉があまり聞かれなくなってきたようにも思う。

学級会などの話し合い活動では自らが提案し、自分たちで司会、進行する話し合いのスタイルを子どもたちはあまり体験していない。よって、子どもの中にはディベートと話し合い活動を同じであると思っている者もいる。また、話し合い活動では、発言者がどうしても限られた5～6人の児童に集中し、その子たちの考えにまとまってしまうことがある。特に最近では、女子の発言が少ない。

5年生から書く活動に継続して取り組んできたため、今では4分の3程度の児童は「書く＝考える」ことが習慣化している。特に女子は思いを文章で表現することを苦にしなくなった。しかし、問題解決について自分の思いや考えを伝える際に「本音」を語る児童は数人であり、よい子の建前論になることが多い気がする。そこで、本音で書かれた文章を通信などで紹介してきたところ、「思ったことを自由に書いていいんだ」というムードは最近生まれてきている。

子ども同士が認め合う場を確保するため、帰りの会では、班から必ず1名（計6名）が「今日の

出来事」と「班のヒーロー」を発表する時間を設けている。「班のヒーロー」のコーナーでは、名前を言われた子どもが恥ずかしそうに照れながら喜んでいる姿が多く見られる。また、毎日のミニ日記では「よいとこみつけ」をテーマに友達のよいところを文章で綴る宿題も経験してきている。時折、自由テーマの日でも友達のよいとこみつけを題材にした内容をみることもある。

交友関係については、一人で休憩時間を過ごす児童が以前からいた。また、休憩時間などに自然に男女が遊ぶ雰囲気になかったため、4月の家庭訪問中には男女で遊ぶ宿題をだして、意図的に体験させた。日によっては男女合わせて15人で遊んだグループもあった。一週間継続したが保護者からも好評で、子どもたちも宿題だからと言いながらもその期間は楽しかったようである。しかし、9月に入り、男女混じって遊ぶ様子は見られなくなり、「全員遊びの日」も子どもたち自身が話し合っただけでなくなってしまった。今では休憩時間に男女遊びが仕組まれることもなくなった。しかし、自分の思いを強く主張する児童が比較的少ないため、学習面など男女のグループ活動はほとんど争いごとなく行うことができる。修学旅行のグループ決めも「8割納得」を目標にして、自分たちでスムーズに決定することができた。よく言えば、おとなしく平和であるが、逆に言えば、人前で自己主張することができないとも考えられる。

○指導観

指導にあたっては、活動を通して学級目標である自主自律に迫りたいと考える。考え、判断、行動（実践）して振り返ることで、学級や自分自身の心の変化に気付かせたいと考える。つまり、みんなで取り組むことで当たり前である「感謝」や「お礼」に対しての焦点化を図り、一人一人が自分のこととして考え自分なりの価値判断をして、思いをはっきり他者に伝える力を伸ばしていきたいと考える。また、みんなで話し合うことの楽しさや自分の意見や考えを友達に伝え、共に喜びをわかちあうなどの体験を通して自己有用感を育てたいと考える。

具体的には以下の通りである。

- ◎ 話し合い活動では、教師が司会役をすることで、児童の多様な考えや思いを引き出していききたい。また、話題が脱線しかけた時には、常に「どういうことを大切にするのか」というキーワードを投げかけていきたい。
- ◎ 話し合いを深めるためには友達の意見を聞いたうえで自分の考えを発言していくような、つながりある意見を奨励していきたい。
- ◎ 一人一人の思いや考えを出せる場を保障していきたい。そのためには、グループでの話し合い活動を大切に、個人での文章記述の時間を確保していきたい。また、ワークシートでは振り返りを自由記述にすることで子どもたちの本音や内面をしっかりと見取っていききたい。
- ◎ 「ありがとうの心」については、今までの自分を振り返らせながら「ありがとう」の気持ちを相手に伝えるにはどのようなことを意識し、何を大切にすべきかを考えさせていきたい。
- ◎ 「ありがとうカード」を異性からもたくさんもらうような人は、みんなからの信望が厚く、その人の周りにはたくさんの友人がいることに気付かせたい。また自分がたくさん「ありがとうの心」を思い、伝えようとすることで自分の心がさわやかになり、人とのかかわり合いが増え、自分の生活が向上していることに気付かせ、理解させたい。
- ◎ これから子どもたちは、徐々に卒業を意識し始めてくる。その中で、何かを残したい、思い出を作りたいという衝動にかられてくるであろう。そのような中で生じてくる子どもたちのエネルギーの高まりを上手に活用していきたい。そして、自発的・創造的な活動に発展するように仕組んでいきたいと考える。そのためにも、友達への「ありがとうの心」を伝えることから学んだことを自分に関わる人達や育ててくれた親への感謝にまで結びつけていきたいと思う。そして卒業する日には感謝の気持ちいっぱいの学級・学校から巣立つ子ども達にしていききたいと考える。

5 題材の目標

「ありがとうの心」を抱き、それを伝え合う行動（実践）が気持ちのよい人間関係を生み出すことに気付くことができる。そして今までのかかわり合い方を振り返ることで今後のよりよい人間関係を築くための基礎を培うことができる。

6 題材の観点別評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学校生活や日常生活の充実や向上を目指すために「感謝」の気持ちを抱き、友達と協力して意欲的に活動しようとしている。	「ありがとうの心」の意味について考えたり、感謝の気持ちの伝え方や表し方について考えたりしている。	考えたことをもとに進んで行動したり、表現したりして楽しみながら活動することができる。	活動を通して、様々なものや人に感謝することの意義や必要性について自分なりにわかる。

7 指導と評価の計画

次	時	学習活動	学習内容	具体的な評価
一	1	「ありがとうの心」について考える	うれしい言葉「ありがとう」の意味について考える。	【思】感謝にはどんな場面があるか想起し考えている。
	2		「ありがとう」カードをつくる。	【知】感謝することの意義について自分なりにわかる。
	3 本時	「ありがとうの心」の伝え方について考える	「ありがとうの心」を広めていくために大切なことについて考える。 6-サンキュー運動について考える。	【思】ありがとうカードをつくる時に大切にすべきことを考えている。
	4	活動の振り返り	一週間の活動を振り返り、感想を出し合う。	【思】活動のよかった面について考えている。
二	5	「ありがとう年賀状」づくり	今、(12年間生きてきた中で)自分が一番「ありがとう」を伝えたい人への年賀状を構想する。	【関】相手が喜ぶ内容を考え、取り組もうとしている。
三	6	親(保護者)への感謝を振り返る	卒業を前に育ててもらった人に対し感謝について想起し、みんなで感謝の伝え方について考える。	【思】12年間の節目を振り返り、感謝について考えている。 【表】自分の気持ちをみんなに伝えることができる。
	7	「ありがとう」の気持ちをまとめる	「ありがとうの会」の役割分担をする。 「ありがとうの心」を文章にまとめる。	【表】自分の思いを一枚の手紙にまとめることができる。
	2 月	8	「ありがとうの会」をしよう(参観授業)	【関】自分の役割を友達と協力して取り組もうとしている。 【表】手紙を通して、素直に「ありがとうの心」を伝えることができる。
四	9	感謝について考える	卒業目前にして「ありがとうの心」の表し方について考える。 卒業式(学校行事)を意識し、自己の役割を考え、自分のできることを知る。	【思】感謝のもち方、表し方について考えている。 【関】卒業式を成功させようという意欲をもち、進んで活動しようとする。
3 月				

8 本時の目標

「ありがとうの心」を伝え合うときに大切なことについて考えることができる。

9 本時の展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援	評価（方法）
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 ありがとうカードをもらった時の感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしかった ・はずかしかった ・おどろいた <p>3 ありがとうカードを書く時に大切なことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に用いたありがとうカードを出させて想起を促す。 ・ 発表がしやすいようにワークシートを準備する。 ・ 発表について消極的な児童は指名して発言を促す。 	
<p>「6－サンキュー運動」でカードを書く時に大切にすべきことは何だろう</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を喜ばせる，うれしくさせる ・ 心をこめる ・ はずかしがらない ・ ていねい，きれいな字で書く ・ 相手のことを知る，気にする ・ 相手をよく見る，見てあげる ・ 話をする，話かける，話を聞く ・ 一緒に遊ぶ ・ 一緒に活動する ・ 自分からの行動 <p>4 「6－サンキュー運動」を進めていくうえで具体的な方法について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつから始めるか ・ カードは，デザインはどうするか ・ いつ書いて，いつ手渡すのか ・ 相手はどうするのか <p>5 本時のまとめをワークシートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返り，自由に感想をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の考えを自由にワークシートに記述させる。 ・ グループでワークシートを見合ったり，話し合ったりすることで発表しやすい雰囲気をつくる。 ・ 日々の行動や活動面について児童の考えを引き出す。 ・ 出た意見をみんなと確認しながら進める。 ・ 時間がきたら途中でも確認を終える。 ・ 思ったことや感じたことを自由に記述させる。 ・ 発表者を指名する。 ・ 活躍した児童を賞讃する。 	<p>【思】自分がカードを書く時に大切にすることを考える。 (ワークシート・観察)</p>

6-サンキュー運動に向けて

前回、「ありがとうカード」をもらった時、どんな気持ちがしましたか。
(具体的に・くわしく・長く)

気 持 ち

書いた人は、班の中で交換して、友達と見あいこしましょう。

①

今日の活動をふり返りましょう。(思ったこと・感じたことを自由に書きましょう)

②